

令和 3 年度 岡本小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

人間尊重の精神に基づき、一人一人の特性や能力を生かし、他者と協働できる、知・徳・体の調和のとれた児童を育成する。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

自ら考え主体的に行動し、心豊かでたくましい児童の育成

○かしこく（進んで学ぶ子）○やさしく（思いやりのある子）○たくましく（元気でがんばる子）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

常に子供を中心に据え、子供の視点に立ち、どの子にも夢とやる気と自信を育む教育を実践するために、学校・家庭・地域が連携・協力し、子供一人一人の個性や能力を生かす活力あふれる学校、思いやりの心を持ち温かみと潤いのある学校、保護者・地域に開かれた信頼される学校となることを目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 基礎・基本の確実な習得と思考力・判断力・表現力の育成を図るため、ICT等を効果的に活用しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努めるとともに、多様な児童の状況に応じた指導・支援を行う。
- (2) 互いを尊重し合う温かな人間関係のもと、認め励ます指導により、児童一人一人の自信や自己有用感を高め、自分のよさを生かしながら、他と協働する力を育む教育活動の充実を図る。
- (3) 運動を通じて体力を養うとともに、健康な生活習慣・望ましい食習慣・危険の予測や回避など、健康で安全な生活を送るための知識や能力を身に付け、命を守り抜くために自ら考え行動できる力の育成に努める。
- (4) 特色ある学校づくりの推進や、体験活動・読書活動の充実を通して、社会性や豊かな心の育成、目標に向かって挑戦し続けるたくましさの涵養に努める。
- (5) 教職員としての高い指導力と専門性を身に付け、同僚性を発揮してチームで協力し合いながら指導にあたるとともに、業務の適正化や勤務時間を意識した働き方を推進していく。
- (6) 積極的な情報の発信・提供により、家庭や地域とのつながりを深めながら教育活動を展開するとともに、学校経営の改善に努める。

[河内地域学校園教育ビジョン]

すこやか河内 ～小中一貫教育を通して、子供たちの心身のすこやかな成長を目指します～

4 教育課程編成の方針

社会の変化やSDGs等に係る現代的な諸課題に対応するため、生涯にわたって成長し続ける基盤となる知・徳・体の調和のとれた力を、児童の発達段階や特性、地域の教育環境、保護者や地域の願いなどを踏まえつつ、教科等横断的な視点で各教科等との関連を図りながら育成する。（◇は留意点）

- ◇ ギネス活動をはじめとする児童会活動や学級活動の時間を確保し、児童の主体性を育む取組を更に充実させるため、週に2日「岡小タイム（ロング昼休み）」が実施できる日課とする。
- ◇ 言語能力を高め、確かな学力を身に付けさせるために、第1学年に、多層指導モデルMIMを導入した授業を位置付ける。
- ◇ GIGAスクール構想の実現を目指し、一人一台端末を活用した学習活動を充実させるとともに、プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けさせるための学習活動を計画的に実施する。
- ◇ 認め合い・励まし合い・協力し合える豊かな人間関係を、縦割り班活動や体験活動、学習指導要領の趣旨を具現化した授業実践等を通して構築するとともに、心のたくましさを涵養する。
- ◇ 魅力ある学校づくり地域協議会の意見や、学校マネジメントシステムによる教育活動の反省を、次年度の学校運営に生かす。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

教職員それぞれが個性や能力を発揮し、同僚性を高めることのできる環境づくりに努めるとともに、校内業務の適正化を図り、勤務時間を意識した働き方を推進していく。

【学 習 指 導】

○児童の学力の状況を把握し、個に応じた指導や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善等により、基礎・基本を確実に習得させ、言語能力の向上に努めるとともに、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。併せて、一人一台端末を活用しながら家庭学習の習慣化に努める。

【児 童 生 徒 指 導】

○規範意識の醸成や認め励ます指導により自信や自己有用感を高め、道徳科（道徳の時間）や体験活動・読書活動の充実、家庭・地域と連携したあいさつや適切な言葉遣いの励行等を通して、生命や人権を尊重する思いやりの心を育み、いじめや不登校を生まない環境を作るとともに、折れない心や、やり抜く心など、心のたくましさの涵養に努める。

【健康（体力・保健・食・安全）】

運動量の確保やICTの活用などによる授業の充実に努め、運動の日常化を推進するとともに、感染症予防や健康な生活習慣、望ましい食習慣に対する理解を深め、改善することができるよう家庭との連携を図る。併せて、安全に関する理解を深め、危険を予測し回避するなど、自らの命を守り抜くための行動力を身に付けられるよう警察等の関係機関とも連携し、指導の充実に努める。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」 →児童肯定的回答 80%以上	①協働体制による研究を進め、授業力の向上を図る。全員で授業を公開し合い、より良い授業を目指して協議を行う。 ②様々な方法や観点からの評価により、一人一人の定着度を把握し、個に応じた指導を行う。 ③○理由などを含めて発表できるよう、発達の段階に応じて指導するとともに、生活、学習の両面で、教師が言葉の意味や使い方を問いかけたり、説明したりする場面を多くし、児童の語彙力の拡充に努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 96.3%で目標値を上回った。 ①学校課題の解決に向けて協働体制で取り組んだ。授業の流れを共通理解しめあてや振り返りの時間を取った。 ②教師の見取りや自己評価、ノートの確認、小テストなどから形成的評価を行い、一人一人の定着度の把握に努めた。また、学習の成果に対して賞賛したり、児童の実態に応じた課題を与えたりして支援を行った。 ③形態を工夫しながら話し合い活動を設定し、理由などを含めて発表できるよう、発達の段階に応じて指導した。 【次年度の方針】 ・協働体制による研究を進め、授業力の向上を図る。全員で授業を公開し合い、より良い授業を目指して協議を行う。 ・様々な方法や観点からの評価により、一人一人の定着度を把握し、個に応じた指導を行う。 ・理由などを含めて発表できるよう、発達の段階に応じて指導するとともに、生活、学習の両面で、教師が言葉の意味や使い方を問いかけたり、説明したりする場面を多くし、児童の語彙力の拡充に努める。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 →児童肯定的回答 90%以上	①○道徳科において、考え議論する授業展開を図るとともに、学年学級を越えて人とのかわり方を深め、相手を思いやり、相手の立場を考え生活できるよう指導の充実に努める。 ②○学校図書館を核とした読書活動の推進により、豊かな心の育成に努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 96.6%で、目標値を上回った。 ①道徳科では、考え議論する授業の展開を図り、ノートを活用して一人一人の成長を振り返るようにした。 ②縦割り班活動を中心に異年齢交流に取り組んだ。 ③児童指導情報交換会などを通して、一人一人の児童に深く関わり機会をとらえて指導することができた。 ④学級図書の充実など、学校図書館を核とした読書活動を推進した。 【次年度の方針】 ○道徳科において、考え議論する授業展開を図るとともに、学年学級を越えて人とのかわり方を深め、相手を思いやり、相手の立場を考え生活できるよう指導の充実に努める。

		努める。 ○学校図書館を核とした読書活動の推進により、豊かな心の育成に努める。
A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】全体アンケート「きまりやマナーを守って生活している」 →児童肯定的回答 85%以上	①集団と個の両面から一人一人の児童の特性を適切に把握し、ふれあいとルールを大切にしたい学級づくりに努める。 ②○「岡本小学校の生活のきまり」「すこやか河内学校園のきまり」の指導の充実とともに、毎月の児童指導の重点の実践に取り組む。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は 90.3%で、目標値を上回った。 ①学級活動や道徳の時間を活用し、児童のよいところを認めながら、ふれあいとルールを大切にしたい学級づくりに努めた。 ②「岡本小学校の生活のきまり」「すこやか河内学校園のきまり」を各教室に掲示意識させるとともに、月ごとの児童指導の重点をもとに各学級で取り組んだ。 【次年度の方針】 ・一人一人の児童の特性を適切に把握し、集団と個の両面からアプローチした、ふれあいとルールを大切にしたい学級づくりに努める。 ○「岡本小学校の生活のきまり」「すこやか河内学校園のきまり」の指導の充実とともに、毎月の児童指導の重点の実践に取り組む。
A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】全体アンケート「時と場に応じたあいさつをしている」 →保護者肯定的回答 75%以上	○新しい生活様式に対応したあいさつ運動の実施方法を検討し、学級活動等の指導を通して、あいさつの定着及び適切な態度が習慣化できるよう取り組む。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答は 86.9%で目標値を上回った。 ①新型コロナウイルス感染症対策の関係であいさつ運動は実施できなかったが、各クラスで時と場に応じたあいさつだけでなく、学校全体で一丸となって取り組むことで定着を推進した。 ②学級活動や道徳の時間を中心に、あいさつの大切さや適切な態度が習慣化できるよう指導した。 【次年度の方針】 ○新しい生活様式に対応したあいさつ運動の実施方法を検討し、学級活動等の指導を通して、あいさつの定着及び適切な態度が習慣化できるよう取り組む。
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 →児童肯定的回答 80%以上	○学校行事や日々の教育活動において、目標を達成する学習過程を重視した指導に努めるとともに、児童の良さや努力などを認め励ます教育を推進する。「児童会活動」「きらきらさん」「宮っ子心の教育表彰」等	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は 88.8%で目標値を上回った。 ①「児童集会や、日頃の教育活動において、目標を達成する学習過程を重視した指導に努め、粘り強く取り組む姿勢が育った。 ②「きらきらさん表彰」や「宮っ子心の教育表彰」等を活用し、児童の良さや努力などを認め励ます教育を推進した。 【次年度の方針】 ・学校行事や日々の教育活動において、目標を達成する学習過程を重視した指導に努めるとともに、AIドリルなどの教育機器を活用して児童の良さや努力などを認め励ます教育を推進する。
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】全体アンケート「健康や安全に気を付けて生活している」 →児童肯定的回答 85%以上	①業間や昼休みは外に出て遊ぶことを推奨するとともに、各種検定カードを有効活用し、進んで運動する機会を増やしていく。また、元気っ子健康体力チェックやミニマムの結果を分析し、体育の授業の中に児童の実態に合った運動を位置付ける。 ②健康の保持増進が図られるよう、毎日の指導に取り組むとともに、保健だよりや食育だより等により啓発し、家庭との連携を図る。 ③避難訓練や交通安全教室等を計画的に実施して、体験活動を通じた安全教育を推進する。	B 【達成状況】 児童肯定割合は 94.8%であり、目標値を上回った。 ①各種検定カードの活用により、児童は積極的に運動に親しんだ。 ②歯科検診の結果やその後の処置の様子をもとに夏休み前の歯みがきカレンダーを個別に配付することで、齲歯の予防・治療等の意識が高まり、受診率・治療率が高まった。 ③火災や竜巻を想定した避難訓練を実施し、事後の振り返りを確実にし、児童の安全に対する意識を高めることができた。 ④共有物や特別教室を使用する際の消毒など新しい生活様式が習慣化してきた。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を引き続き継続するとともに、新しい生活様式に対応した内容の工夫・改善を図る。

A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】全体アンケート「夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 →児童肯定的回答 80%以上	④新しい生活様式に対応した工夫改善を図る ○集団や地域のために働く機会を設定するとともに、学校農園活動や校外学習等により、働くことの大切さや喜びを実感させる教育活動に取り組む。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 88.8%で目標値を上回った。 ①「児童集会や、日頃の教育活動において、目標を達成する学習過程を重視した指導に努め、粘り強く取り組む姿勢が育った。 ②「きらきらさん表彰」や「宮っ子心の教育表彰」等を活用し、児童の良さや努力などを認め励ます教育を推進した。 【次年度の方針】 ・学校行事や日々の教育活動において、目標を達成する学習過程を重視した指導に努めるとともに、AIドリルなどの教育機器を活用して児童の良さや努力などを認め励ます教育を推進する。
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】全体アンケート「外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 →児童肯定的回答 80%以上	①教員が英語を使うとともにALTを活用し、英語のやり取りを中心とした授業を展開する。 ②ALTとの交流給食など、学校生活の中で英語を使う機会を設ける。	【達成状況】 児童の肯定的回答は、90.6%で、目標値を大きく上回った。 ①②ALTと密に打ち合わせを行い、ALTとのやり取りの中で、身に付けるべきキーセンテンスに慣れ親しませることができた。 【次年度の方針】 ・今後も外国語活動の時間だけでなく、日常的に英語に触れる機会をもたせることで、コミュニケーションの素地を養えるようにする。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】全体アンケート「宇都宮の良さを知っている」 →児童肯定的回答 80%以上	①生活科や社会科、総合的な学習の時間において、岡本地区や宇都宮市を教材にした学習を展開する。また、市作成教材を活用し、さらに宇都宮市のよさを実感できるよう授業を展開する。 ②地域の情報を収集し、学校だよりに掲載することにより、地域の良さを実感できるよう児童や保護者の地域活動を促進する。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 82.4%で目標値を上回った。 ①②各教科等を通して、岡本地区や宇都宮市を教材にした学習を展開することができた。 【次年度の方針】 ・市作成教材を活用し、さらに宇都宮市のよさを実感できるよう授業を展開する。
A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】全体アンケート「パソコンや図書等を学習に活用している」 →児童肯定的回答 60%以上	①情報教育担当や司書が学級担任と連携し、コンピュータ及びタブレット、学校図書館図書、市立図書館の巡回図書等の活用を図る。 ②読み聞かせの実施や図書だよりによる啓発などにより学校図書館を核とした読書活動を推進する。 ③○ICTや図書資料を意図的に取り入れ、分かりやすい授業の展開を心がける。さらに1人1台タブレットの導入を機に、その特性を各教科の学習に生かす。	【達成状況】 児童の肯定的回答は、96.6%で目標値を大きく上回った。 ①一人一台端末の活用は全学年積極的に取り組めた。また、巡回図書の活用もできた。 ②図書便りや図書委員会のイベント等を通じた啓発に努めた。 ③各学年の実態に応じ、日常的に有効活用することができた。また、ICT機器に偏ることなく、図書資料も意図的に取り入れた。 【次年度の方針】 ・ICTや図書資料を意図的に取り入れ、分かりやすい授業の展開を心がける。一人一台端末のさらなる効果的な活用を追求し、各教科等の学習に生かす。
A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 →児童肯定的回答 90%以上	①○新しい生活様式のもと、地域の高齢者との交流などにより、地域の人とのかかわりを深め、相手を思いやり、時と場に応じた言葉遣いができるよう指導の充実に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 96.6%で、目標値を上回った。 ①道徳科では、考え議論する授業の展開を図り、ノートを活用して一人一人の成長を振り返るようにした。 ②縦割り班活動を中心に異年齢交流に取り組んだ。 ③児童指導情報交換会などを通して、一人一人の児童に深く関わり機会をとらえて指導することができた。 ④学級図書の充実など、学校図書館を核とした読書活動を推進した。 【次年度の方針】 ○道徳科において、考え議論する授業展開を図るととも

目 指 す 学 校 の 姿			に、学年学級を越えて人とかかわりを深め、相手思いやり、相手の立場を考え生活できるよう指導の充実に努める。 ○学校図書館を核とした読書活動の推進により、豊かな心の育成に努める。
	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている」 →児童肯定的回答 80%以上	①学校農園活動や花いっぱい運動など、自然の大切さを実感させる教育活動に取り組む。 ②地域学校園クリーン活動や奉仕活動、給食ごみリサイクルなど、学校内外の環境維持を意識させる教育活動に取り組む。 ③避難訓練や交通安全教室等を計画的に実施するなど体験活動を通した安全教育を推進する。また様々な災害における避難方法等詳細を保護者へ周知・連携を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答は、91.0%で、目標値を上回った。 ①生活科での農園活動や花いっぱい活動など、環境に目を向けた活動を取り入れた。 ②総合的な学習から委員会活動に発展し、校内放送や掲示物、イベントを通してSDGsの啓発を行った。 ③各避難訓練や交通安全教室等の体験活動も十分実施した。 【次年度の方針】 ・今後も活動の内容や方法の工夫を継続し、学校内外の環境維持や安全を意識させる活動を実施する。
	A13 教職員は特別な支援を必要とする児童の実態に応じて適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート「特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」 →教職員肯定的回答 80%以上	①教育支援委員会及び児童に関する情報交換会等により、特別な支援を必要とする児童や保護者の情報共有を図る。 ②教育支援委員会及びケース会議により、学級やかがやきルームでの指導方針・具体策を組織的に検討し、一人一人のニーズに応じた指導に努める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は、95.7%で目標値を大きく上回った。 ①②組織的な対応により、個に応じた指導に努めるとともに保護者との情報共有に取り組んだ。 【次年度の方針】 ・次年度もきめ細やかな指導を行い、さらに一人一人に応じた教育を充実させていく。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケート「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる」 →保護者肯定的回答 75%以上	①いじめに関するアンケートや教育相談、いじめゼロ集会を実施し、普段から安心して相談できる教職員と児童との関係づくりに努め、早期発見・対応を図る。 ②○道徳科の授業公開や人権週間の設定、いじめゼロ強調月間による啓発などにより、児童にいじめを許さない心情を育てる。 ③○児童が安心して相談できる教職員との関係づくりに努め、早期発見・対応を図るとともに、様々な啓発及び指導などにより、児童にいじめを許さない心情を育てる。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は87.5%で目標値を上回った。 ①年2回いじめに関するアンケートと教育相談を実施し、細かな実態把握に基づく具体的な対応や未然防止に努めた。 ②いじめゼロ強調月間におけるデータ配信によるいじめゼロ集会の実施や道徳科との連携によりいじめを許さない意識が高まった。 ③ロング昼休みの学級での共遊等の時間に積極的に児童との交流を図ることによって、児童との親密な関係を築き、いじめの早期発見・対応につなげることができた。 【次年度の方針】 ○継続して、児童が安心して相談できる教職員との関係づくりに努め、早期発見・対応を図るとともに、様々な啓発及び指導などにより、児童にいじめを許さない心情を育てる。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】全体アンケート「先生方は、一人一人を大切にし、児童（生徒）がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 →児童の肯定的回答 80%以上	①学習指導や特別活動をとおりして自己肯定感を高める取り組みを継続して行い、児童の良さをいかす教育環境を整え、不登校を未然に防止する。 ②「きらきらさん表彰」や「宮っ子心の教育表彰」等を活用し、児童の良さや努力などを認め励ます教育を推進する。 ③SCM及び不登校対策担当を核として組織的に支援策を検討し、保護者との連携や別室登校支援などに取り組む。	【達成状況】 児童の肯定的回答は97.8%で目標値を大きく上回った。 ①学習指導や特別活動を通した自己肯定感を高める取り組みや、児童の良さを生かす教育環境を整え、不登校を未然に防げるように努めた。 ②「きらきらさん表彰」「宮っ子心の教育表彰」等を活用し、児童の良さや努力等を認め励ます教育を推進した。 ③児童支援委員会などで組織的に支援策を検討し保護者との連携や別室登校支援に取り組むことができた。 【次年度の方針】 ・児童の良さや努力などを認め励ます教育の推進による自己肯定感を高める取り組みを継続して行い、児童のよさを生かす教育環境を整え、不登校を未然に防止する。 ・タブレットなどの教育機器を活用して保護者との連携や

		別室登校支援などに取り組む。
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート「特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」 →教職員肯定的回答 80%以上	①教育支援委員会及び児童に関する情報交換会等により、特別な支援を必要とする児童や保護者の情報について共有を図り、通訳者派遣や翻訳文書の配付など行政支援の要望を検討する。 ②教育支援委員会及びケース会議により、学級やかがやきルームでの指導方針・具体策組織的に検討し、一人一人のニーズに応じた指導に努める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は、95.7%で目標値を大きく上回った。 ①②組織的な対応により、個に応じた指導に努めるとともに保護者との情報共有に取り組んだ。 【次年度の方針】 ・次年度もきめ細やかな指導を行い、さらに一人一人に応じた教育を充実させていく。
A17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケート「私は今の学校が好きです」 →児童の肯定的回答 90%以上	①体験的な活動を取り入れたり、教育機器等を有効に活用したりして、児童の学習意欲を高める授業の工夫をする。 ②〇学校行事に児童が自主的・主体的に取り組む場面を設定し、教師が適切な指導・支援・助言をする。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 96.3%で、目標値を上回った。 ①教育機器やデジタル教科書などを積極的に活用したり、可能な限り体験的な活動を取り入れたりして、児童が興味・関心をもって取り組むことができる授業の展開に努めた。 ②教育活動ごとに、児童が具体的な自分のめあてを明確にして自主的に取り組めるよう、計画段階から適切な指導、支援がなされるように立案し、全教職員の共通理解に基づいて実施した。 【次年度の方針】 ・今後も継続して、効果的な教育機器の活用や体験的な活動に取り組み、児童の学習意欲を高めていく。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケート「教職員は分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」 →教職員肯定的回答 90%以上	①学力の向上等を目指し、教材研究を十分に行い、明確な課題提示と、振り返りや発問、学び合いや活動により、分かる授業を展開する。 ②児童の実態に応じたきめ細かな指導をするために、単元や学習内容に応じて様々な学習方法及び形態の工夫をする。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 95.7%で目標値を大きく上回った。 ①学年ブロックで連携して I C T 機器を活用したり、よりよい授業が展開できるよう教材研究に努めたりした。 ②児童の実態把握に基づき、かがやきルーム指導員と連携しながら個に応じた指導ができた。 【次年度の方針】 ・教材研究や授業準備がより効率的・効果的に行えるよう計画・実施するとともに、少人数指導や習熟度別学習、T.T に よる指導を適宜取り入れ、学力向上を図る。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 →教職員肯定的回答 80%以上	①様々な学校行事のみならず、日頃の教育活動全般において、教職員と関係する学校スタッフが事前の打合せも含めて協働の意識で業務にあたったので、今後も継続させたい。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 82.6%と、目標値を上回った。 ①教育活動全般において「報告・連絡・相談」を密にし、協働の意識を高めることで円滑に業務を遂行できた。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続する。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】出退勤記録 12 月までの全教職員残業時間の平均→月 45 時間未満	①大きく見直した各種の行事や計画を、課題と成果を明らかにして改善させるようカリキュラムマネジメントを行う。 ②ミライムやポータルなどをより活用したペーパーレス化や効率化の共通理解を推進し、事務等の一層の効率化を図る。	【達成状況】 12 月までの全教職員残業時間平均が、月 23 時間 25 分であり、目標を達成した。 ①行事の精選に取り組む、業務量のスリム化につながった。 ②ミライムやポータルサイトの積極的活用により、業務の効率化につながった。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続する。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】全体アンケート「学校は、小学校と中学校が連携した小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている」 →保護者肯定的回答 85%以上	①〇地域学校園研修や各部会・教科部会等を定期的実施し、計画的に推進する。 ②〇「小中一貫教育だより」や「学校だより」、HP 等による情報発信に努め、保護者や地域への周知を図る。	【達成状況】 保護者の肯定的回答が 79.2%であり、目標値を下回った。 ①昨年度に引き続き、感染症対策のため、地域学校園関係の研修等を十分に行うことができなかった。 ②学校だより等の情報発信は行ったが、関係行事の実施自体が少なく、十分な情報を提供できなかった。 【次年度の方針】 ・現在の状況の中でできることを確実にし、できる限りの情報発信に努め、保護者や地域への周知を図る。
A22 学校は、地域の教育力	①街の先生及び学校支援ボ	【達成状況】

	を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 →地域肯定的回答 80%以上	ランティアと連携した授業や活動を教育課程に位置付けて実践する。 ②昨年度の取組・課題を生かし、岡本小地域協議会を核にした教育活動支援の円滑な実施と有効活用に努め、学校運営の充実を図るとともに、地域や保護者への情報発信に心がける。	地域の肯定的回答は 88.2%であり、目標値を上回った。 ①街の先生・学校支援ボランティアと連携した学習や活動を可能な限り計画的に実践した。 ②岡本小地域協議会を開催し、情報共有・協働に努めた。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続する。
	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 →地域肯定的回答 80%以上	①校外学習計画の見直しに伴い、街の先生及び学校支援ボランティアと連携した授業や活動の見直しをしながら実践する。 ②地域協議会便り等の各種便りや HP を活用してより一層地域や保護者への啓発活動を広げていく。	【達成状況】 地域の肯定的回答は 88.2%であり、目標値を上回った。 ①街の先生・学校支援ボランティアと連携した学習や活動を可能な限り計画的に実践した。 ②岡本小地域協議会を開催し、情報共有・協働に努めた。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続する。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 →保護者肯定的回答 80%以上	①保護者や学校施設利用者へ災害時避難方法や児童送迎時の自家用車乗り入れ方法の周知、AED講習の案内など、危機対応に関する情報を提供する。 ②全教職員による毎月の安全点検を行い、児童や利用者が安全に活動できる環境づくりに取り組む。	【達成状況】 保護者肯定的割合 92.1%であり、目標値を上回った。 ①災害時の児童引渡しに関する送迎ルートを工夫改善し、訓練に取り入れたことにより、実際の運用の際に、円滑に行うことができた。 ②安全点検結果に対して、学校業務嘱託員や機動班と連携しながら速やかに対処することで、安全な環境づくりに努めることができた。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続する。
	A25 学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。 【数値指標】全体アンケート「パソコンや図書等を学習に活用している」 →児童肯定的回答 90%以上	①情報教育担当や司書が学級担任と連携し、ICT 機器、学校図書館図書、市立図書館の巡回図書等の活用を図る。 ②読み聞かせや図書などによる啓発など学校図書館を核とした読書活動を推進する。 ③ICT や図書資料を意図的に取り入れ、分かりやすい授業の展開を心がける。さらに 1 人 1 台タブレット導入を機に、その特性を各教科の学習に生かす。	【達成状況】 児童の肯定的回答は、96.6%で目標値を大きく上回った。 ①一人一台端末の活用は全学年積極的に取り組めた。また、巡回図書の活用もできた。 ②図書便りや図書委員会のイベント等を通じた啓発に努めた。 ③各学年の実態に応じ、日常的に有効活用することができた。また ICT 機器に偏ることなく、図書資料も意図的に取り入れた。 【次年度の方針】 ・ICT や図書資料を意図的に取り入れ、分かりやすい授業の展開を心がける。一人一台端末のさらなる効果的な活用を追求し、各教科等の学習に生かす。
本校の特色・課題等	B1 すべての学習活動を通して、児童の積極性を育てる。 【数値指標】全体アンケート「学習や生活に積極的に参加できた」(1～4年)「学習や生活に責任をもって取り組むことができた」(5・6年) →児童肯定的回答 85%以上	① 学校全体の活動において、本校の実態に応じて改善・充実させ、学校及び学年学級の活性化を図る。 ② 児童会活動等の運営に参画させ、高学年がリーダーとして活動できるよう指導する。	【達成状況】 児童の肯定的回答が 94.4%であり、目標値を上回った。 ①各種委員会活動等の提案に対して多くの児童が目的に賛同し、活動の活性化が図れた。 ②児童会活動を児童が中心になって企画・運営することで、積極性・協調性が高まった。 【次年度の方針】 ・本校の実態に応じて児童会活動等を改善・充実させ、学校及び学年学級の活性化や、高学年のリーダーとしての資質を高める場を充実させる。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

【全体的な傾向】

全項目中 7.5 割の項目で肯定的回答割合 90%を上回っている。また昨年度を下回った項目は主に「小中一貫・地域学校園」に伴う内容が多かった。

【目指す児童の姿（評価項目：A1～12）】

- 今年度、A1～A12 の目指す児童の姿の質問項目すべてで、目標値を上回った。特に A1～A4、A10～A12 の項目については、目標値とともに昨年度の肯定的回答率を上回り、予想を超えて、新しい生活様式に適応しながら生活していたことがうかがえる。今年度、校外学習等に制限が多かったが、今後も市作成

の教材や出前授業等を活用するなどして、児童が自分の住む地域への理解や愛着が深まるよう努めていく。

【目指す学校の姿（評価項目：A 1 3～2 5）】

- 今年度、A 1 3～A 1 6、A 2 4の項目については、目標値を10ポイント以上上回って感染症対策に追われながらも教職員が一丸となって教育活動を進めた努力が認められた。A 1 7～A 1 9についても、目標値を上回っており、来年度も今年度の成果と課題をより明確化して取り組む必要がある。A 2 0の業務の効率化も、残業時間平均月45時間未満目標も、23時間25分と目標を大きく上回ることができ、継続した効率化を進めていく。全質問項目中、唯一目標値に達しなかったA 2 1「小中一貫教育」については、感染症対策の影響からほとんどの事業の実施が見送られたことから、新しい生活様式や感染症対策をしていく中でどんな活動ができるのか学校園全体で検討していく必要がある。

【本校の特色・課題等（評価項目：B 1）】

- 本校の特色であるB 1「ギネス活動等を通して積極的に学習や生活に取り組む」は、感染症対策によって例年の活動ができなかったものの、児童らの意欲の高まりから推進された児童会活動があり、そこに向けて学校全体の雰囲気も盛り上がった。今後もこの経験を活かし、より自発的・自治的活動の高まりを目指す指導に努めていく。

7 学校関係者評価

【児童の学習態度や生活態度について】

- ・昨年度も今年度も続けて100%であった「進んで学習に取り組む態度」や「思いやりの心」などは、制限の多い学校生活にあっても適応しながら生き生きと取り組む様子が見えてきた。また、時と場に応じたあいさつについて、昨年度を上回っていた。

【教職員の指導について】

- ・すべての項目で目標値を上回ったが、昨年度を下回る部分もあり、継続して新学習指導要領における「主体的で対話的な深い学び」に関する研修を続けなければならない。また、ICT機器の活用や持続可能な社会については、すべての教科・領域において扱ったり活用したりしていることから肯定的回答率がより高まったと考えられる。

【教職員の協力体制と効率化について】

- ・今年度は感染症対策を中心に各種活動に取り組んだ年だったこともあり、教職員がチームとなって協力する体制を一層強化することができた。また、学習指導要領の改訂をもとに様々な活動を根本から見直したり、積極的にICT機器を取り入れたりすることで、効率化が図られていると思われる。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【目指す児童の姿】

○新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の視点から、ICT機器や図書等の活用等を計画的・効果的に授業へ取り入れるなどして一層の授業改善を図り、分かる授業を展開することにより学力向上を図る。

○時と場に応じたあいさつを継続的に指導し、より一層明るいあいさつにあふれた学校を目指す。

○児童が進んで運動する機会の充実や、高まりつつある齲歯の予防・治療意識を高める取組を継続するなどして、健康体力の保持増進を図る。また、体験活動を通じた安全教育を推進し、安全に対する意識を高める。

・市作成の教材や出前授業等の機会を活用するなどして、児童が自分の住む地域への理解や愛着が深まるよう努めていく。

【目指す学校の姿】

・大きく精選された各種教育活動等実践の成果と課題を明確にするなどして、カリキュラムマネジメントを推進するとともに、業務効率化の共通理解を十分図るなどして、新学習指導要領に基づく学校運営及び教育活動を円滑に実施する。

○教職員が児童一人一人の良さを認め励ます指導に継続して取り組み、児童の自己有用感を高め、児童が互いに認め合い、高め合う学級づくりに努める。

・本校の特色である「集会活動」は、今年度の児童会活動実践のノウハウを生かしながら特色ある活動として継続するために改善を図っていく。

・岡本小地域協議会を要として、街の先生や学校支援ボランティア等の協力による教育活動支援の円滑な実施に努め、地域とともにある学校づくりを推進する。

○河内地域学校園における連携協力を図るとともに感染症対策の中でできる交流を模索していく必要がある。また、古里中学校との行事調整等にも取り組み、今後も古里中学校の各種情報も可能な範囲で保護者へ提供できるよう努めていく。